

平戸市の男女共同参画状況と目標

| 平戸市の男女共同参画状況 | | 基準値(基準年) | 令和8年度目標 |
|----------------------|---------------------|--------------|---------|
| 意識 づくり | 平戸市人権教育研究大会参加者数 | 152人(令和元年度) | 250人 |
| | デートDV防止学習会の実施 | 年3回(令和3年度) | 年3回以上 |
| 仕事・家庭・地域活動 における推進 | 市の審議会等委員の女性登用率 | 18.5%(令和3年度) | 35% |
| | 市の男性職員の配偶者出産休暇取得率 | 61.1%(令和2年度) | 80% |
| | 市職員の年次休暇取得日数 | 8.8日(令和2年度) | 15日 |
| | 男女共同参画に関する講演会などの開催 | 年1回(令和3年度) | 年1回 |
| | 企業・団体などへの情報提供 | 0回(令和3年度) | 年1回以上 |
| 健康で安心して暮らせる 環境づくり | 妊婦検診の受診率 | 94.9%(令和2年度) | 100% |
| | 認知症サポーター年間要請数 | 148人(令和2年度) | 300人 |
| | DVIに関する理解促進のための情報発信 | 年1回(令和3年度) | 年1回以上 |
| | 防災会議女性登用率 | 0%(令和3年度) | 30% |
| | 女性消防吏員採用率 | 0%(令和3年度) | 3% |



特集

男女共同「活躍」計画

第5次平戸市男女共同参画計画を策定しました。最適なワークライフバランスで、男性も女性もともに活躍できる社会の実現へ向けての取り組みを紹介します。

国内の状況

平成11年に「男女共同参画社会基本法」が制定され、男女がともに活躍できる社会の実現へ向けて、全国で取り組みが加速しました。

現代日本が直面している高齢社会・人生100年時代での経済的自立や自己実現のためには、未だに根深く残る「男性は働き、女性は家事や子育てを」「リーダーは男性、女性は細やかな仕事を」などの無意識の思い込み「アンコンシャスバイアス」を払拭し、男女を問わず家事・育児・介護と両立できる持続可能な働き方が求められています。

また内閣府は、男女共同参画社会の早期実現のために、政治・雇用・防災・教育など11の分野にわたる方針を盛り込んだ第5次男女共同参画基本計画を策定し、各方面に取り組みを促しています。

平戸市男女共同参画計画

平戸市では平成13年度に、男女共同参画社会基本法に基づく「平戸市男女共同参画計画」を策定し、これまでに3回の改定を通して、住民一人ひとりが元気で夢のある生活を実現するための施策に取り組んでいます。

しかし、平戸市の審議会などの女性委員登用率は18.5パーセント、嘱託員やPTA会長は全員が男性と、「代表は男性が行う」という意識が根強いことがわかります。また冠婚葬祭や地区の行事などでは、「女性が炊き出しから配膳までを担い、男性は台所に立つてはならない」などの慣習が受け継がれています。

令和4年3月、これまでの取り組み状況や時代の変化に伴う新たな課題を踏まえ、今後5年間における具体的な取り組みを定めた第5次平戸市男女共同参画計画を策定しました。

地域の実情や伝統を踏まえつつ、この計画に基づき、男女がさまざまな分野にともに参画して、喜びも責任も分かち合い、誰もが輝く男女共同参画社会の実現を目指します。

男女共同参画社会のキーワード

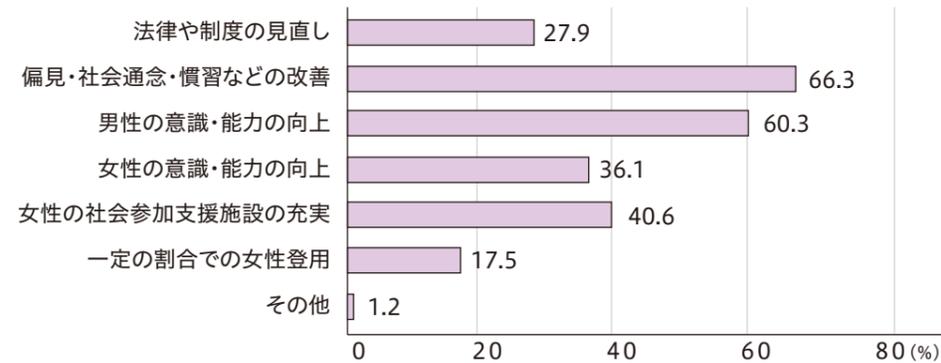
イクボス 部下のワーク・ライフバランスを考え、個人のキャリアや人生を支援することで、組織の業績を向上させつつ、自分の仕事と私生活も楽しむ上司。

アンコンシャスバイアス 無意識の思い込み、偏見。

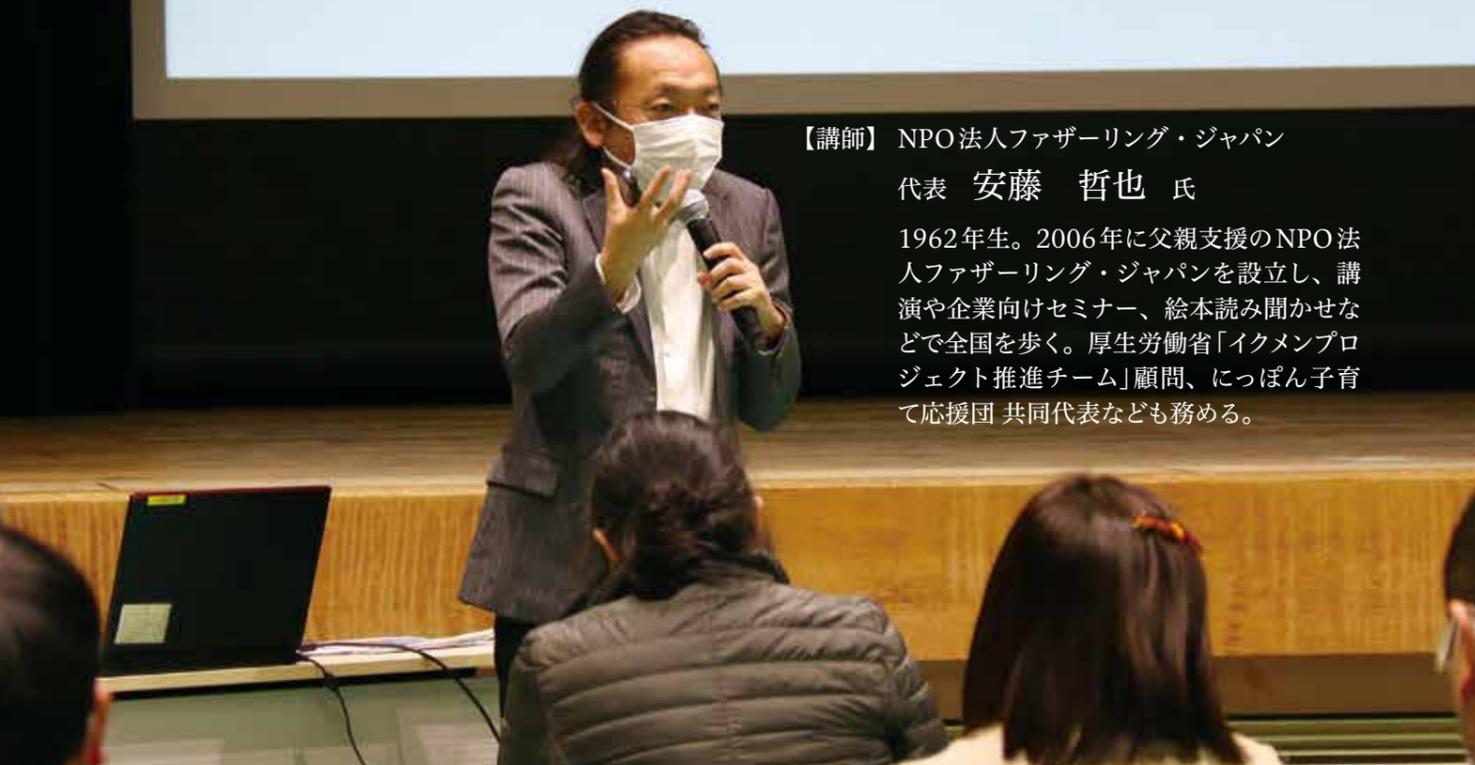
ジェンダーフリー 社会的性別にとらわれず平等かつ自由に行動できること。

ワークライフバランス 仕事と私生活の充実の均衡度合い。

アンケート 男女がともに社会に参加するための課題 (令和元年度男女共同参画社会に向けての県民意識調査結果(長崎県)より抜粋)



総務課行政班(☎22-9100)



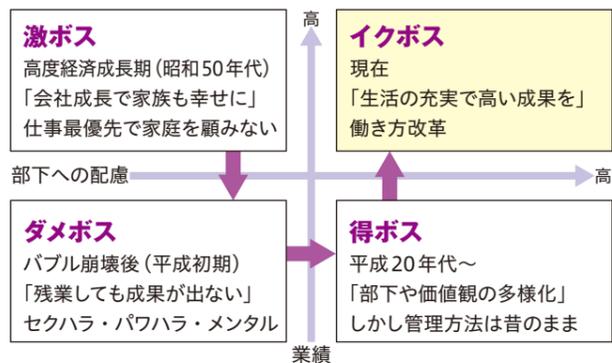
【講師】 NPO法人ファザリング・ジャパン

代表 安藤 哲也 氏

1962年生。2006年に父親支援のNPO法人ファザリング・ジャパンを設立し、講演や企業向けセミナー、絵本読み聞かせなどで全国を歩く。厚生労働省「イクメンプロジェクト推進チーム」顧問、にっぽん子育て応援団 共同代表なども務める。

▲イクボスセミナーでの安藤哲也講師による講演

時代とともに移り変わるリーダー像



父親の子育てが子どもの自尊心に
父親が育児に関わることは、母親の育児ストレス軽減、就労時間の確保など、夫婦関係や家計に良い影響を与えます。何より、円満な夫婦関係は、子どもの心の安定にもつながります。

また、父親と幼少期を過ごすことで、子どもの自尊心や忍耐力が高まるなど、精神面にも大きなメリットがあると言われています。

変化するリーダー像
かつては、「24時間働けますか」という言葉の流行が象徴するように、

根拠のない差別につながるアンコンシャスバイアスを払拭するためには、個人の努力と同時に、職場の理解や環境が大切です。部下とその家族の人生を支援できる「イクボス」が増えることは、男女共同参画社会の実現に向けての大きな一歩となります。

そこで平戸市では、令和3年度、3回目となる「イクボスセミナー」を開催しました。

男女とともに輝く平戸市をつくるために

男女共同参画促進のための法整備や情報発信により、女性の雇用や待遇は大幅に改善されつつあります。しかし、職場のみならず家庭内でも、慣習や無意識の思い込みによる差別意識が根強く残っています。男女がともに輝く平戸市をつくるために、それぞれの立場で意識を変えることが重要です。

アンコンシャスバイアス(無意識の思い込み)チェックシート
共感するものがあれば男女共同参画を妨げているかもしれません。

【職場編】

- 仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い
- 女性に理系の進路(学校・職業)は向いていない
- 組織のリーダーは男性の方が向いている
- 事務作業などの簡単な仕事は女性がすべきだ
- 女性は正規雇用にこだわらなくともよい

【家庭編】

- 自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ
- 子どもの学校行事には女性が参加するべきだ
- 男性は仕事をして家計を支えるべきだ
- 家事・育児は女性がすべきだ
- 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳は女性の役割だ

根強い差別意識を払拭するには
上記の「アンコンシャスバイアス(無意識の思い込み)チェックシート」の項目に共感する人も少なくないのではないだろうか。

男女共同参画社会とは、性別の違い自体を否定するものではなく、性別により根拠のない差別を受けることなく、職業や生活様式を自由に選択できる社会のことです。

根拠のない差別につながるアンコンシャスバイアスを払拭するためには、個人の努力と同時に、職場の理解や環境が大切です。部下とその家族の人生を支援できる「イクボス」が増えることは、男女共同参画社会の実現に向けての大きな一歩となります。

- イクボスになるための10の実践**
- ①会議のムダ取り
 - ②社内資料の削減
 - ③書類の整理整頓
 - ④マニュアル化
 - ⑤労働時間を管理
 - ⑥業務分担の適正化
 - ⑦他の業務を知る
 - ⑧スケジュール共有
 - ⑨がんばるタイム
 - ⑩効率化策の共有

イクボスになるためには
部下のワークライフバランスに配慮しつつ会社の業績を上げるのは難しいことですが、左記の10の実践など、少しずつ意識を変えていくことが大切です。家庭・職場・地域を育むイクボスを目指しませんか。

上司も部下も家族を顧みず働くことが美德とされてきました。しかし近年、「生活の充実が仕事での高い成果につながる」という価値観が浸透し、部下のワークライフバランスに配慮できる「イクボス」が注目されるようになりました。





平戸郵便局総務部
課長 森本 正一 さん

昭和39年生まれ。平戸市下中野町出身。高校卒業後、日本郵政に入社し、九州管内の郵便局に勤務しながら、3人の子育てを終え、現在は孫の成長を見守っています。

日本郵便株式会社では、4月から男性社員の育児休暇に関する説明と意向確認が義務化されることになりました。これまで、男性が育児休暇を取得することは可能でしたが、3日間程度の取得にとどまっていた。義務化されたとしても、もしも社員が「自分には関係ない」と考えてしまつては取得が進みません。

私の家庭も、3人の息子が成人しましたが、できるだけ子育てに協力しているつもりでした。しかし、仕事を優先するために、妻に大きな負担をかけていたと思います。その反省から、若い世代の皆さんには、ぜひとも夫婦で協力して子育てしてほしいと思っています。

特に私たちの会社は、20代、40代の体力のある皆さんに長く働いてもらえる職場を目指している。総務部の立場として、社員一人ひとりの出産や育児などに配慮し、サポートできる「イクボス」を目指します。



十八親和銀行平戸支店
課長 深田 由佳 さん

平成3年生まれ。平戸市田平町出身。吉井支店の次に平戸支店に配属され、産休取得中の合併などを経験し、現在は1児の母として、育児と仕事に奮闘しています。

私は一昨年、長男を出産し、育児休暇を取得しました。職場の上司や同僚の配慮のおかげで、気兼ねなく出産・育児に専念できました。

女性が育休を取ると、職場の理解がとて大切だということ。私も夫の両方の職場の理解があるからこそ、私たちが夫婦で子育てできています。いつも支えてもらっている上司や同僚に感謝するとともに、当社のように理解のある職場が増えてほしいと思います。

「職場の理解の高さに感謝」

平戸の男女共同「活躍」企業

平戸市内にも、男女がともに活躍する事業所が多くあります。ここでは2社の皆さんに、夫婦間や職場における育児への協力や、家庭の充実がもたらす仕事への変化について伺いました。



十八親和銀行平戸支店
課長 松下 友博 さん

昭和53年生まれ。佐世保市出身。平成13年に入社以来、長崎市、佐世保市、北九州市などへの転勤が多い中で、2人の娘の父として子育てと仕事にまい進しています。

当社では、3年ほど前から、男性の育児休暇取得推進の取り組みとして、男性が育児休暇を取得する際、最初の10日間を有給扱いとする制度を導入しました。

式などで休暇をとり、極端に少ないメンバーで対応することが必要になりました。皆さんがしっかりと子どもたちの成長を見届けることができよう、管理職も総出で窓口対応に当たりましたが、普段は窓口に出ないので、バタバタしてしまいました。しかしこれも、今では良い思い出です。

「社員同士でサポートを」

「子育てを応援したい」

男女共同「活躍」平戸市へ

平戸市長もイクボス宣言



イクボスセミナーに先立ち、安藤講師の立ち合いのもと、黒田市長がイクボス宣言書に署名しました。今後、平戸市役所職員のワークライフバランスの充実により、行政サービスの向上を目指し、市長自らイクボスとしての決意を新たにしました。

- ① 男女共同参画社会形成に向けた意識づくり
 - ② 仕事・家庭・地域活動における男女共同参画の実現
 - ③ 健康で安心して暮らせる環境づくり
- 本市をはじめ地方部においては、古くからの習わしやきたりなどが多く、男女の役割分担などのアンコンシャスバイアスが都市部よりも根深く残っています。
- 第5次平戸市男女共同参画計画では、
- アンコンシャスバイアスを払拭することができれば、地方部におけるコミュニティは、子育てのサポートをはじめ男女が共に活躍できる可能性を秘めています。男性も女性も輝く魅力ある平戸市をつくっていきましょう。